

神戸市立摩耶兵庫高等学校いじめ防止基本方針

はじめに

「いじめは、どの学校でも、どの学級にも、どの生徒にも起こりうる」という基本認識に立ち、本校の生徒が、楽しく心豊かな学校生活を送ることができる、いじめのない学校をつくるために「神戸市立摩耶兵庫高等学校いじめ防止基本方針」を策定した。

本校における「いじめ防止のための基本的な姿勢」は、

- 神戸市いじめ指導三原則「するを許さず されるを責めず 第三者なし」を核とし、いじめは絶対に許されないことであるという認識のもと、指導を展開する。
 - 生徒、教職員の人権感覚を高める。
 - 生徒と生徒、生徒と教員をはじめとする校内における温かな人間関係を築く。
 - ソーシャルスキルトレーニングを通し、人間関係構築能力の育成を図る。
 - いじめを早期に発見し、適切な指導を行い、いじめ問題を早期に解決する。
 - いじめの問題について保護者や関係機関との連携を深める。
- の6つのポイントに重点を置いて取組を進める。

1 「いじめ」とは

「いじめ」とは、本校に在籍している生徒に対して、本校に在籍している等の一定の人的関係にある他の生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む）であって、いじめを受けた生徒が心身の苦痛を感じているもの。

本校では、「いじめ」を訴えてきた生徒の立場に立ち、この「いじめ」の定義に関わらず、その訴えを真摯に受け止め、生徒を守るという立場に立って、事実関係を確認、対応に当たる。

2 本校の教職員の姿勢

- ・生徒一人ひとりが、自分の居場所を感じられるような学級経営に努め、生徒との信頼関係を深める。
 - ・生徒が自己実現を図れるように、分かる授業を日々行うことに努める。
 - ・生徒の思いやりの心や命を大切にすることを育む道徳教育や学級指導の充実を図る。
 - ・「いじめは決して許さない」という姿勢を教員が持っていることを、様々な活動を通して生徒に示す。
 - ・生徒一人ひとりの変化に気づく、鋭敏な感覚を持つように努める。
 - ・生徒や保護者からの話を親身になって聞く姿勢を持つ。
 - ・「いじめ」の構造やいじめ問題の対処等「いじめ問題」についての理解を深める。
- 特に、自己の人権感覚を磨き、自己の言動を振り返るようにする。
- ・問題を抱え込まないで、管理職への報告や学年や同僚への協力を求める意識を持つ。

3 校内体制について

(1) 摩耶兵庫高等学校いじめ問題対策委員会を設置する。

構成は、校長、教頭、学年主任、指導部長、生徒指導担当、人権教育推進委員長、養護教諭、スクールカウンセラーとする。

(2) いじめ問題対策委員会の役割

- ・本校におけるいじめ防止等の取組に関することや、相談内容の把握、生徒、保護者へのいじめ防止の啓発等に関することを行う。
- ・いじめの相談があった場合には、当該担任等に加え、事実関係の把握、関係生徒、保護者への対応等について協議を行う。なお、いじめに関する情報については、生徒の個人情報取り扱いを十分に注意しながら、本校の教職員が共有するようにする。
- ・本校のいじめ対策についての取組の検証と改善を行う。

4 いじめを未然に防止するために

<生徒に対して>

- ・生徒一人ひとりが認められ、お互いを大切にし合い、学級の一員として自覚できるような学級づくりを行う。また、学級や学校のルールを守るといった規範意識の醸成に努める。
- ・分かる授業を行い、生徒に基礎・基本の定着を図るとともに、学習に対する達成感・成就感を育てる。
- ・思いやりの心や、生徒一人ひとりがかけがえのない存在であるといった命を大切にする心を、総合の授業や学級活動をはじめ、すべての教育活動を通して育てる。
- ・「いじめは決して許されないこと」という認識を、全ての生徒がもつよう様々な活動の中で指導する。
- ・見て見ないふりをすることは「いじめ」をしていることにつながることや、「いじめ」を見たら、教職員や友だちに知らせたり、やめさせたりすることの大切さを指導する。その際、知らせることは決して悪いことではないことも合わせて指導する。

<学校全体として>

- ・全教育活動を通して、「いじめは絶対に許されない」という土壌をつくる。
- ・いじめに関するアンケート調査を実施し、結果から生徒の様子の変化などを教職員全体で共有する。
- ・いじめチェックリストを活用し、担任を中心に生徒の状況を複数の教員で観察する。
- ・スクールカウンセラーや養護教諭を中心に、教育相談体制の充実を図り、全教職員で生徒の心のケアに当たる。
- ・「いじめ問題」に関する校内研修を行い、「いじめ」について本校教職員の理解と実践力を深める。
- ・生徒会活動を中心に、生徒が自主的に「いじめ撲滅」を目指す取組を進める。
- ・いつでも、誰にでも相談できる体制の充実を図る。

<保護者・地域に対して>

- ・生徒が発する変化のサインに気づいたら、すぐに学校に相談することの大切さを伝える。
- ・「いじめ問題」の解決には、学校、家庭、地域の連携を深めることが大切であることを、保護者会や懇談会、学校だよりなどで伝えて、理解と協力を得る。

5 「いじめ」の早期発見について

- ・教育相談などにより、担任が生徒の悩みを相談できる時間を確保する。
- ・教員がカウンセリングを意識して行い、日常の生徒の様子を見守る。
- ・生徒の様子を、担任をはじめ多くの教員で見守り、気づいたことを共有する場を設ける。
- ・様子に変化が感じられる生徒には、積極的に声かけを行い、安心感を持たせる。
- ・アンケート調査等を活用し、生徒の人間関係や学校生活等の悩みの把握に努め、共に解決していこうとする姿勢を示して、生徒との信頼関係を深める。

6 「いじめ」の早期対応について

- ・いじめに限らず、困ったことや悩んでいることがあれば、誰にでも相談できることや、相談することの大切さを生徒に伝えていく。
- ・いじめられている生徒や保護者からの訴えを、親身になって聞き、生徒の悩みや苦しみを受け止め、生徒を支え、いじめから守る姿勢をもって対応することを伝える。
- ・いじめに関する相談を受けた教員は、管理職に報告するとともに、いじめ問題対策委員会等、校内で情報を共有する。
- ・学校として組織的な体制のもとに、事実関係の把握を行う。
- ・事実関係を正確に当該の保護者に伝え、学校・家庭の協力のもとに解決していく。
- ・再発を防止するため、いじめを受けた生徒・保護者への支援と、いじめを行った生徒への指導と保護者への支援を継続的に行う。
- ・状況によっては、教育委員会、警察署、少年サポートセンター、神戸市こども家庭センター等と連携して対処する。

7 特別な支援を必要とする生徒への配慮

- ・特別な支援を必要とする生徒に対する「いじめ」の未然防止・早期発見・早期対応には十分に配慮する。

8 インターネットやソーシャルメディア利用によるいじめへの対応

- ・パソコンや携帯電話、スマートフォン等の利用時の、マナーやルールづくり等について、保護者に協力を依頼する。
- ・インターネットやソーシャルメディアの危険性について、最新の情報を把握して生徒や保護者に啓発活動を行う。

- ・情報モラル教育を積極的に進めるために、少年サポートセンターをはじめとする関係機関との連携を進める。
- ・インターネットやソーシャルメディア利用によるいじめを認知した場合は、書き込みや画像の削除等の迅速な対応を図るとともに、事案によっては警察や法務局等の関係機関と連携して対応する。

9 保護者・地域との連携

- ・保護者、育友会と連携し、会合等で学校でのいじめの現状や取組を発信するとともに、家庭や地域での協力・見守りを依頼する。
- ・地域の小学校や中学校との会議を開催し、いじめを撲滅するための取組を連携して進める。

10 関係機関との連携

- ・インターネットやソーシャルメディアの危険性をはじめ、情報モラル教育を積極的にすすめるために、少年サポートセンターをはじめとする関係機関との連携を進める。
- ・犯罪行為等が認められるときには、警察や少年サポートセンター、法務局等と連携した対応をする。
- ・その他、学校の指導だけでは十分な効果を上げることが困難な場合には、積極的に関係機関との連携を行う。

11 いじめ事案への対処について

- ・人権に配慮しながら、事実確認を的確に行い、指導の記録を残す。
- ・保護者に対して、事実について説明する。
- ・今後、二度と起こらないような体制づくりを行い、理解を得る努力をする。
- ・いじめられた生徒を守るために、全教職員で情報を共有し、解決に向け組織的に支援を行う。
- ・いじめた生徒へは、いじめは絶対に許さないという毅然とした指導を行う。相手の思いや、自己の行為を考えさせる。二度といじめを起こさない姿勢をつくる。
- ・教育委員会に事実関係を報告する。

12 重大事態への対処

- ・重大事態が発生した際は、教育委員会に迅速に報告する。
- ・教育委員会の指示のもと、第三者からなる組織を設け調査する。
- ・重大事態が発生したことを真摯に受け止め、事実関係を把握し、調査委員会に速やかに提出する。
- ・いじめを受けた生徒及び保護者に対しては、学校として説明責任があることを自覚し、真摯に情報を提供する。

13 その他

- 学校評価においては、年度毎の取組について、生徒、保護者からのアンケート調査、教職員評価を行い、次年度の取組の改善に生かす。
- この基本方針は、本校の状況に応じて、摩耶兵庫高等学校いじめ問題対策委員会において点検、見直しをすすめ、適切に改訂を行う。